

## 会 議 録

会議名	令和4年度 第1回 丸亀市自治推進委員会
開催日時	令和4年10月7日（金）18:30～19:40
開催場所	オンライン会議
出席者	<p><b>出席委員</b> 池永文彦、植谷澄子、鹿子嶋仁、関泰子、秋山ともえ、岩崎正朔、高尾光一、高木明美、塚本詩乃、増田美樹、竹内彩奈、桃谷優太郎</p> <p><b>欠席委員</b> 門裕介、渡辺ななみ</p> <p><b>事務局</b> 市長公室長 山地幸夫 （市長公室秘書政策課）課長 窪田徹也、政策マネジメント室長 高倉鋭悟、総括担当長 宇野大志郎、副主任 安藤悠子</p> <p><b>市出席者</b> 市民生活部長 田中壽紀 （市民生活部生涯学習課）課長 谷本智子、副課長 窪田美由紀、市民協働担当長 直江麻紀</p>
議 題	1. 第2次丸亀市協働推進計画（仮）の策定について 【報告】自治推進に関する取組について
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
窪田課長	<p>ご案内の時刻がまいりましたので、ただいまから令和4年度第1回丸亀市自治推進委員会を開会いたします。本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>最初にご紹介ですけれども、今回の会議から天野委員に代わりまして秋山委員に、善木委員に代わりまして桃谷委員にご出席いただいております。秋山委員、桃谷委員、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>また事務局の組織名が政策マネジメント室になり、人事異動により室長として高倉が参りましたのでご紹介します。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議ですが、コロナの感染状況に鑑みまして、オンラインで開催させていただきました。議事に入ります前に、本日の資料の確認をいたします。</p> <p style="text-align: center;">《資料の確認》</p> <p>ここからは、丸亀市附属機関設置条例第7条の規定によりまして、鹿子嶋会長に議事進行をお願いいたします。</p>
鹿子嶋会長	<p>本日の会議は14名中12名のご出席をいただきました。丸亀市附属機関設置条例により、会議が有効に成立していることをご報告します。</p>

直江担当長	<p>それでは早速議事に入ります。「第2次丸亀市協働推進計画（仮）の策定」について事務局から説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">《資料1-1～1-2に基づき説明》</p>
鹿子嶋会長	<p>ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。</p> <p>特にご意見もないようですので、この議題に関しましてはここで審議を終わらせていただきます。続きまして、報告事項「自治推進に関する取組」について事務局より説明をお願いいたします。</p>
安藤副主任	<p style="text-align: center;">《資料2～6に基づき説明》</p>
鹿子嶋会長	<p>ただ今の説明に関して、何かご意見、ご質問がございましたらお願いします。</p> <p>まず私の方から1点、e モニター制度については良い取組だと思うのですが、一般的に「モニター」という言葉を使うとき、例えば「消費者モニター」の場合、商品を使ってみてここが使いづらいとか、ここを改善してほしいという情報を取得したいために、「モニター」という言葉を使います。モニターは問題点などを発掘する手法として有効だと思います。</p> <p>今回どのような内容で実施されているのか全部理解しているわけではありませんが、資料としてお示しいただいたSDGsに関しては、モニターというよりアンケートに近いのではないかという気がします。「モニター」という言葉を使うのであれば、丸亀市政のどこに問題があるかという意見を寄せていただきやすいような設問の設定などに配慮していただく方が良いのではと思いました。</p>
秋山委員	<p>e モニターアンケートの集計結果を見て、e モニターの皆さんがSDGsのことを案外知っていると思ったら10代の回答者数が少ないので、市民全体としての把握にはならないのではと感じました。10代の方にもう少し参加していただくと結果が違ってくるのではないかと思います。</p>
桃谷委員	<p>e モニターへの謝礼は、なぜQUOカードPay500円分なのでしょうか。同じ予算であれば、例えばマルタスに来てもらうためにスターバックスの商品券500円分であるとか、地域感が出るように、おいでまい何グラムということもできるのではと思いました。</p>
鹿子嶋会長	<p>年代構成は確かに考えなくてはいけないところだと私も思います。個人的なイメージでは中学生や高校生は学校で習いますから、大人よりもはるかにSDGsについて知っていると思います。e モニターの登録が先着順ということになると年齢に偏りが出ることもありますのでご検討いただけたらと思います。</p> <p>謝礼について、金券よりも地域に結びついたものを選んだ方が良いのではという意</p>

窪田課長	<p>見が出ましたが、事務局よりいかがでしょうか。</p> <p>このeモニター制度につきましては、まずスタートを切る段階で丸亀市民を対象に市政についての様々な課題を、アンケート等の補完的な手法として、市民の皆さんのお考えやご意向をお聞きすることとしました。また、自治推進委員の皆さんからデジタルを活用した新たな市民参画手法を取り入れるようにというご意見をいただいておりますので、謝礼につきましてもデジタルにこだわったというのが私共の考えでございます。</p>
植谷委員	<p>昨年度、いろいろとアンケートについて意見させていただきました。回答しやすいアンケートであるとか、何か謝礼をつけて欲しいというようなことを意見として申しましたので、それが素早く今年度実現していただき、意見が通っていることを実感して嬉しく思っています。eモニターにも登録させていただいていますが、5分もかからないうちに自分の意見が伝えられるというところも良いと思いました。</p> <p>10代の登録者数が少ないというのはこれからの課題だと思いますが、桃谷委員のような若い方から謝礼は商品券でない方が良いという意見が挙がるのも新しい発見です。いろいろな意見があって、若い方が地域を愛してくれるような方向性に向かうことが、これからeモニター制度を続けていくことの意義だと思います。</p>
高倉室長	<p>10代の登録者数が少ないことについてですが、資料3のチラシにもありますとおり、概ね18歳以上の方を対象にした募集となっておりますので、10代の回答者数も少なくなっております。今後も引き続き、若い世代を含め多くの方に協力していただけるよう努力していきたいと思っております。</p> <p>また、アンケートテーマについては、市役所内の各担当課に、市民の皆さんに聞いてみたいことを調査し、その中で出てきたことをテーマとして扱っています。</p> <p>今回、資料4のSDGsについてのアンケート集計結果は、抜粋版のため記載していませんが、SDGsのアンケート項目として「家庭や勤務先、学校など日常生活で取り組んでいること」についてもお聞きしましたので、eモニターの皆さんから教えていただいた内容は様々な場面で紹介しながら、市民の皆さんも取り組んでみてはどうでしょうかという提案もしていけたらと考えています。</p>
塚本委員	<p>今10代の方のお話が出ましたが、そもそもメールよりLINEを使用する方が多い印象があります。行政で何か展開する場合に、市の公式LINEを活用することは難しいのでしょうか。</p>
窪田課長	<p>今回スタートを切るにあたっては、各年代でまだまだ一般的に普及の度合いが高いであろうメールを選択いたしました。今後の展開の中でLINEといった媒体の活用を検討していくこともあるかと存じます。</p>
鹿子嶋会長	<p>先ほどデジタルを活用した取組という話がありましたが、eモニター制度の他にも</p>

	<p>パブリックコメントや意見の投書、ふるさと納税など、様々なことがインターネット上でできるようになっています。わざわざ市役所に行かなくても良いので便利ですが、市のホームページでは、市民からの情報発信の窓口が点在しているので、何か一括して掲載したページがあれば良いのではと感じます。スマートフォンでふるさと納税について調べている人が、パブリックコメントをするつもりはなかったけど、ネットでできるならしてみようかということにも繋がると思います。</p>
高木副会長	<p>広報まるがめへの記事の掲載ですが、自治基本条例の認知度がどのようにしたら上がるかということが自治推進委員会の中でもテーマになり、そこを目標にしなくても良いのではという意見も出ました。今回の広報の記事は認知度向上というところではなく、自治基本条例の内容を周知するという観点で身近な事例を挙げ、分かりやすく啓発したものになっている印象を持ちました。</p>
鹿子嶋会長	<p>自治基本条例の認知度はあまり気にする必要はなく、実際に自治基本条例が目指している協働などの具体的な取組が広まっていく方が大事です。具体例を示していただくと、これだったら自分でもできるかなとイメージを膨らませることができますので、現在の方向性で広報を図っていただければと思います。</p> <p>以上で本日の会議を終了します。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>